

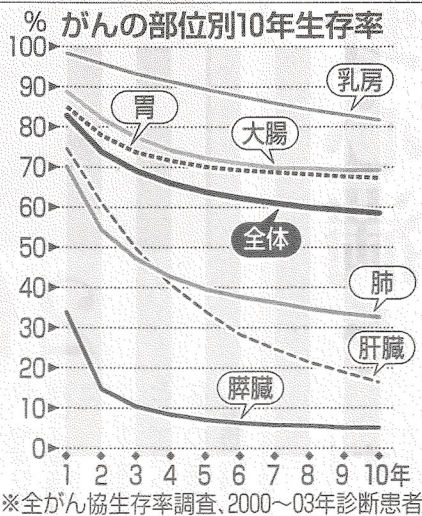
# がん5年生存率69%

## 国立がんセンター 約10年で7ポイント上昇

国立がん研究センターは、2000～03年にがんと診断された人の10年後の生存率は58・5%だったと16日付で発表した。10年生存率の算出は昨年に続き2回目で、0・3ポイント上昇した。06～08年に診断された人では、5年後の生存率が69・4%と判明。統計を取り始めた1997年の患者よりも約7ポイント高かった。

### 10年生存率は58.5%に

検診などによる早期発見の取り組みや、抗がん剤や放射線治療などががん医療の進歩が生存率の向上につながったとみられる。研究チームは「約10年以上前にがんにかかった人の生存率で、現在はさらに治療成績は向上し



多い主ながんでは、胃が67・3%、大腸がん69・2%、肝臓がん16・4%、肺がん32・6%だった。前立腺がん(94・5%)や甲状腺がん(89・3%)の経過が良い一方、自覚症状がほとんどなく早期発見が難しい膵臓

に低下。早期に発見し治療を始めるほど経過の良いことがあらためて確認された。部位別の生存率を5年後と10年後で比べると、胃がんや大腸がんはほぼ横ばいだったが、肝臓がんは34・1%から16・4%に大きく低下。肝臓能が悪化している患者が多

く、がん以外にも長期の療養が必要となる。乳がんも89・3%から81・7%に下がっており、再発が背景にあるとみられる。

部位別やステージ別、治療法別などの生存率は「全国がん(成人病)センター協議会」のホームページで公開される。